

(略) 敗戦の現実に叩きのめされ、社会全体がまだ虚脱状態になっている時、6・3制の新学制が敷かれましたこととて、校舎はもとより教室も何も準備がないままに義務教育として発足されましたから応急の処置としてやむなく常呂小学校内に独立中学校としてとにかく開校することになりました。

しかし、小学校とて余分の教室や教具があるわけではありませんから裁縫室や屋内体操場を仕切って使用するとか、ある学級では廊下の一部を区切って辛抱してもらおうより仕方ありませんでした。

その上もっとも困った問題は、机や腰掛けが間に合わぬことでした。そこで窮余の策として生徒にも協力してもらってミカンの空箱などを持ち寄ってもらい、それを並べてカンナもかかっていない板を置いて机代わりとなし、生徒は床板の上に座って授業を受けるといふ、今から顧みてまったく想像もつかないほど惨めなものでありました。これが長い間、戦争一途に駆り立て、欲しがりません勝つまではという合言葉で、すべてに我慢をさせてきた子どもたちに与えられた終戦の代償かと思えば、泣くにも泣かれぬ寂しい気分になり、教室の後ろの方に立って生徒たちの後ろ姿に手を合わせたいような気持にさえなりました。

そこで毎日のように学校へ行き、校長の政井先生を始め、諸先生方と親しく話し合い、少しでも生徒の幸いになるよう努力し、あるいは新学制に戸惑いしている父兄に対しては極力懇談して物心両面にわたって協力してもらえよう懇請したこともありました。

一面、町に対しては早急に校舎の新築を要望し、第1期工事に着工されるよう話が進みました。またまた村有地が約3戸分あることを幸いに、これを校舎敷地と運動場及び実習地として申請しましたが、その全部は認められず、現在の面積だけようやく許可になりました。これとても新制中学校の敷地として当時としては道内においても異例の広いものでありました。

また建設に際しては先生や生徒一同も今度こそ自分たちのためにいよいよ独立中学校ができるのだという喜びに胸をふくらませて、整地などに関しては涙ぐましいまでの協力をしてくださいました。

そして昭和24年の秋、夢にまで見て待っていた新校舎が立派に完成しました。この落成式の時の先生や生徒の方々の喜ばれた姿は未だに忘れぬことができないほどでありました。

元よりこの時分には現在ののような完備されたものではありませんから、特別教室もなく屋内体操場もないため、朝礼の時でも生徒は丁字型の廊下に整列し、その真ん中に先生方が立って集合するという不自由なものでありましたが、それでも自分たちのために新しく完成された校舎で勉強ができるというその喜びだけでいっぱいでありました。(略)

*注

昭和22年4月1日 常呂村立常呂中学校として開校

- 常呂小学校校舎の一部を借用し、仮授業を開始
政井三郎初代校長着任
- 5月12日
6月17日 常呂中学校PTA設立（初代会長・松平慶顕氏）
6月22日 常呂小学校と合同で第1回運動会を開催
7月23日 校章制定
7月25日 開校記念式典挙行
9月20日 第1回校内マラソン大会開催
9月28日 初めて村内中学校陸上競技大会開催
11月16日 常呂市街栄町に村費で校長仮住宅新築
11月30日 常呂小学校と合同で第1回学芸会開催
昭和23年2月15日 神社山において第1回スキー大会開催
3月19日 第1回卒業式挙行、常呂中学校同窓会設立
4月1日 5学級編成認可
10月30日 通学区域父兄の寄付金で栄町に教員住宅2棟4戸新築
12月4日 学校参観日開催
- 昭和24年3月3日 「母の集いの日」開催
4月1日 6学級編成認可
5月24日 村議会で常呂中学校独立校舎建築可決
7月6日 3年生が札幌方面へ初修学旅行
10月28日 独立校舎新築落成
11月3日 新校舎落成式挙行